

小郡市消防団

OGORI Volunteer Fire Corps

2022年11月9日発行 第29号

■発行／小郡市消防団



育児と消防団（第7分団 木村）

（広報委員会一同）

普段は仕事をして、家では家事育児の傍ら消防団として訓練・出動している方もたくさん所属しています。

本広報誌では現役団員と三井消防署員がお互いの存在について熱く語る対談を掲載しております。

コロナ禍とその対策の厳しい環境の中、梅雨前に土のうを使った水防訓練、また今年はポンプ操法大会（火災を想定した資機材の操作を競う）が3年ぶりの市大会、4年ぶりの県大会が開催され、改めて操法とは何か、災害現場での活動に、いかに活用されているか考えさせられるものとなりました。

消防団とは何か？を知っていただく一助となれば幸いです。

お出かけは マスク戸締り 火の用心

2022年度全国統一防火標語

- ◇連載企画 第5回 消防団とわたしたち
- ◇福岡県消防操法大会 優勝！
- ◇炊き出し訓練しました／消防団員募集要項



秋山消防課
第一課長

大中第5分団長
(味坂小学校区)

特別対談

連載 第5回 消防団とわたしたち

「広報誌を手にとった皆さまに、消防団についてもっと知っていただきたい。」
そんな想いから、今回は三井消防署の署員と分団長に消防団の必要性を語って頂きました。【本文敬称略】

消防団は必要！

その理由を現役の署員と分団長が語る

消防団は必要なのか？といった声を聞くことがあります。

(大中) 地域の運動会やまちづくり協議会などを通して地元の人たちや子供たちと触れ合いを感じてもらえる存在になっていっていると思います。また、災害の時によく自助、共助、公助と言われますが、消防団はどこにでも当てる存在だと思っています。自分の親や近所のお年寄り、地域の人々を気にかけることもできるし、公的な動きで消防団として機能することができると一番身近な存在と思っています。線状降水帯が毎年のように発生しています。大雨になった時の避難状況とか、「あそこのおばちゃん大丈夫かな」とか、「危険な箇所はあそこだ」とかそういつたことが分かるのが消防団の強みじゃないかなって思っています。

(秋山) 消防署といえば、まず火災というのをメインに思われると思いますが、近年は大雨・洪水といった浸水を伴う災害の中で、人手を必要とする活動がものすごく多くなっているのが実情です。消防署というのは一つの災害に対して限られた人数での対応となります。そこを消防団の方々の力を借りて、地域の地の利を活かした避難ルートや指揮所を設けることのできる場所のアドバンスを頂けるといったことが、ものすごくありがたく、消防署としては助かっています。

消防団の必要性を感じた現場はありましたか。

(秋山) 火災の現場では、消防団の人たちに放水補助、延焼拡大防止といった活動をして頂いています。近年は自然災害が多く、災害の時に避難のお手伝いをして頂いたり、地域の方たちの顔が見えるといったことで、逃げ遅れている人の情報を得ることができ、大変ありがたく思っています。火災現場はもちろんのこと、冠水状況のなかボートを引き救助活動をされたり、マンパワーを必要とする現場で活動をされるのが大変ありがたいです。

(大中) 火災現場ではその地域の分団の人が、自然水利の場所を分かっています。消火栓のことも防火水槽のことももちろん分かっています。長く水を出すことができる自然水利を確保しようといった気持ちもあります。水害についても5分団の管轄内では、陸の孤島みたいなので、抜けられる道や水没してしまふ場所なども分かっています。

そのような詳細な情報を本部の方に伝えることができるというのが、消防団の必要性にもつながっていると思います。

消防署と消防団の関係性について教えてください。

(秋山) 災害時において、顔の見える関係性を築いておくことが大切だと思います。現場でも気軽に声かけができれば、何かの対応をお願いしやすかったり、情報も得やすくなります。そういった関係性を作るためにも、教養訓練等で消防署の知識や技術を受け継いで頂きたい。

長期間の操法訓練では、多くの団員の方々が集まって応援や手伝いをされています。そんな消防団と一緒に動けるというのが、大変ありがたいことだと思っています。

(大中) 正しい知識や、技術を指導してもらったことで、訓練や災害現場では頼りになるし、安心もつながっています。災害現場では消防団がなかったら消防署の負担も大きくなり、被害も大きくなることもあると思います。そのなかで適切な指示や危機管理などを協力してもらったことで消防署と消防団は一緒に活動できるのだと思います。今年には操法大会があったことで、操法訓練を通して消防署をより身近に感じることができました。

消防団にはこういった人材がいますか。

(秋山) 真面目で一生懸命に活動されている方が多いと感じます。操法訓練の時でも、皆が自分事として考えて一生懸命に訓練に励んでおられます。応援される方たちも、自分の意見ややり方を押し付けるのではなく、伝え方を工夫してみたり、

強制ではなくあくまで協力だということを頭において、課題としていた「きれいな操法」を目指しながらも、しっかりと結果を出せたことに感激しました。

(大中) 自営業やサラリーマンなど様々な職業の方がいます。そういった方たちとの交流は刺激にもなるし、職種を超えてひとつのつながりをもてるなんてこんな貴重な場は他には無いと思っています。他所から来た人でも、新しい土地でのつながりを作ろうと消防団に入られる方もいます。そうやって関係を築くことができる場所なんだと思います。

最後に記事を読んでいる皆さんに向けてひと言お願いします。

(秋山) 消防団の方々には地域に密着して消防署と共に皆さんを災害から守るといった役割を十分に果たしてもらっていると思います。最近消防団の入り手が少ないと聞きますが、消防団に入ることで有事の際に身近な人達を守る知識・技術を得ることができるところが魅力であると思います。知識・技術を得ることで災害時に、消防署と共に自助・共助・公助を実践して頂くことが可能な存在だと思っています。消防団の人員が多いと、災害現場でも連携をとりやすくなります。皆さんの家族・地域を守るといった気持ちを持って、ぜひ消防団に入ってくださいと思います。

(大中) 厳しい訓練もありますが、地域とのつながり、現役・先輩方とも永くつきあっている関係性を作ることができました。自分が消防団に入る前のイメージと違って、実際に入団してみると消防団は本当に真面目に目的に向かって頑張っていると感じました。消防団を退団した後でも一生付き合っていくことのできる地域のもちろんありですが、やっつけ損ずることはないです。消防団を決してイメージで見ずに入団してみたいです。入団して得る財産は多いと思います。



9月4日（日）に第26回福岡県消防操法大会が福岡県消防学校（嘉麻市）にて行われ、ポンプ車の部にて小郡市消防団が優勝しました。

また、個人では優秀選手賞（各番員で最も優秀な選手）に小郡市消防団から選手3名が選ばれ表彰されました。

今回、新型コロナウイルス第7波の渦中であり、操法訓練が困難な時もありましたが、選手の頑張りのもと、選手の職場や家族のご理解、徹底した感染対策、三井消防署署員の熱心なご指導、そして団員が一丸となって応援・支援した結果、優勝することができました。

小郡市消防団は「市民の生命・身体・財産を守る！」という大きな使命を担うため、様々な活動・訓練に励んでいます。その一つである消防操法は火災現場での消火を想定したものであり、充実した訓練を重ね、団員の技能向上を図っています。

選手紹介（上記写真前列左より）		
指揮者	第2分団	福田信明（優秀選手賞）
1番員	第4分団	肥山浩三（優秀選手賞）
2番員	第3分団	重松啓介
3番員	第6分団	竹割拓弥
4番員	第7分団	池内敦洋（優秀選手賞）
控選手	第4分団	藤井幸太
控選手	第3分団	深山武文



県大会消防操法動画



<https://youtu.be/2LvAv0gcbmA>

【操法競技について】

消防操法はポンプ車の部と小型ポンプの部があります。ポンプ車での操法は、指揮者の号令のもと、4名の隊員が、互いに協力し、まずポンプ車右側からホースを展張・結合後、放水で標的を倒します。更に車両左側からホースを展張・結合し、2番目の標的を倒します。

各隊員の「規律、節度」「敏しょう性」「確実な動作」「安全性」「チームワーク」などを審査した採点の総合点及び標的が倒れるまでの時間得点の合計で順位を競います。

祝優勝



本部分団もサポートしました

8月21日(日)本部分団は炊き出し訓練をしました。
残暑厳しい中、訓練を終えた選手の皆さんや応援の方々約70名に食べていただきました。



メニュー
・冷やしうどん
・いなり寿司



気合が入った!



暑い中の訓練後で夏バテ気味でもさっぱりと食べられて美味しかったです♪



団員募集



小郡市消防団は総勢241名(9月13日現在)で構成されています。日頃から訓練に励み、技術や知識の習得に努め、あらゆる災害に備えています。

様々な職業、幅広い年齢層のメンバーが、それぞれ仕事や家庭に無理がないようにお互いに協力しながら活動しています。

ぜひ、消防団に入ってみませんか? 団員一同、心よりお待ちしております!

小郡市消防団



- 入団資格 18歳以上で市内に居住、勤務、通学している男女
- 活動内容 災害時活動・各種訓練・防災啓発等
- 公務災害補償 消防活動中の負傷者等に対する補償制度有り
- お問い合わせ 〒838-0198 福岡県小郡市小郡255番地1

小郡市役所 経営政策部 防災安全課 消防・安全係

TEL: 0942-72-2111 (内線243) <http://shobo.ogori.net/>